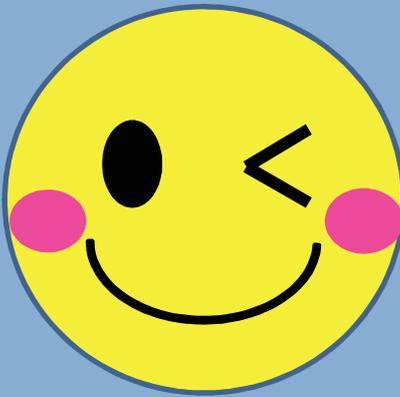


梶原町社協だより

ゆすまいる



第11号
(平成28年7月)

目次

平成27年度決算報告 /

地域福祉計画と地域福祉活動計画について 1P

熊本地震災害義援金について /

ゆすはら複合福祉施設設立準備室より 2P

ちょっと聞いてや〜みんなもやってみんかえ〜 3~4P

おげんき発信について 5P

輝く梶原人！み〜つけたっ！ 6P

掲示板 (リユースゆすはらについて)

熊本地震災害義援金について

赤い羽根 共同募金



熊本地震に対する義援金の報告とお礼

このたびの熊本地震におきまして、犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、被災者及びご家族の皆様方にお見舞い申し上げます。

高知県共同募金会梶原町支会では、町民の皆様・各種団体等から多くの浄財をお預かりしています。6月30日（木）までにお預かりした義援金は、次のとおりです。

熊本県向け：824,940円

大分県向け：24,614円

ご寄付いただきました団体、梶原町連合青年団様、宅老所「陽だまり」様をはじめ、その他、個人の皆様から多くの義援金をお預かりしました。この義援金は高知県共同募金会を通じて、被災された地域へ送付されます。たくさんのご賛同・ご協力を心から感謝申し上げますとともに、1日も早い地震の収束と復興をお祈りいたします。

熊本県義援金の募集期間が延長されます。

熊本県向け義援金の募集につきましては、被害が甚大で被災地の復旧・復興には期間を要し、今なお不便な生活を強いられている被災者が多数いらっしゃることや義援金の申出を途切れなくいただいている現状を踏まえ、**平成29年3月31日（金）まで**募集期間を延長することとなりました。なお、募金箱は6月30日に一旦回収しておりますので、今後も募金をご協力頂ける場合は、**梶原町社会福祉協議会まで義援金をご持参ください。**引き続き当事業に対するご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

- ◆安心生活基盤構築事業
西区・四万川区・松原区に担当職員を配置。区会、部落会への参加、座談会の開催等を通じ、地域や個別の課題把握、改善・解決を支援した。
- ◆総合相談（延べ相談件数）
福祉サービス利用援助事業（156件）
生活福祉資金貸付事業（0件）
生活困窮者自立支援事業（83件）
出張法律相談（法テラス）（2件）
- ◆高知県共同募金会梶原町支会
赤い羽根募金実績
（846,415円）
- ※配分金事業
まごころ弁当（552食）
シルバー介護士会訪問活動
独居高齢者へのお便り
よつば会独居高齢者訪問
ミニいきいきふれあい広場
災害ボランティアセンター体制整備
募金箱作成
- ◆ボランティア・福祉教育
災害ボランティアセンター運営模擬訓練
（西区・松原区・梶原高校）

支出区分	金額（円）
人件費支出	39,019,807
事業費支出	3,578,852
事務費支出	4,535,309
負担金支出	36,000
その他の活動支出	1,094,246
合計	48,264,214

- 梶原学園高齢者疑似体験（2回）
地域支え合い活動つむぎあい（46回）
認知症講演会（1回 62名）
◆団体事務局
梶原町老人クラブ連合会
梶原町身体障害者連盟
- ◆その他
高齢者自発型安否確認システム
（おげんき発信） 20件
生きがい活動支援事業
グランドゴルフ講習 5地区 15回

地域福祉計画と地域福祉活動計画

地域福祉計画・地域福祉活動計画は、地域に住む皆さんが主人公です。



本年度社会福祉協議会（社協）では、保健福祉支援センターと連携し地域福祉計画（行政計画）の改訂に合わせて、地域福祉活動計画を一体的に策定します。

地域福祉計画と地域福祉活動計画は連携・連動しており、計画を策定していくためには、地域の事を一番よく知っている地域の皆さんの参加が必要不可欠です。

（地域福祉計画＝行政計画）
◇住民から出された地域課題に対して町が行う取り組みの方向性や基本的な考え方を示し、今後施策を展開していくうえでの柱立てや推進の基本事項を定めるもので、地域の助け合いによる福祉（地域福祉）を推進するための基本計画的な役割を担うものです。

6月に第1回策定委員会が開催され、現在各区で区長、部落代表を中心に分科会が開催されています。今後、各部落で課題の見える化を行っていただき、それをもとに座談会でご意見を伺っていく予定です。お住まいの地域で地域課題に取り組みたいというご希望があれば、是非お声掛け下さい。また、社協から声をお掛けする地区もありますのでご協力をよろしくお願いいたします。

（地域福祉活動計画＝民間計画）
◇地域住民、ボランティア組織、NPO法人等の住民が協働して、地域福祉を推進することを目的とした、地域住民と社会福祉協議会が協働で策定する民間の活動、行動計画です。



ゆすはら複合福祉施設設立準備室より

平成30年3月オープンに向けて、介護スタッフの募集活動を継続的に行っています。
現在、四国をはじめ、岡山、神戸方面の介護福祉関係の大学及び専門学校に直接訪問し、現状について、担当の先生とお話しをさせていただきました。
そうした中で、介護人材の厳しい現状についての話を伺いました。
特に専門学校では、定員40人の募集に対して生徒数20人程度となっている学校が多く、介護職を希望する子どもたちが減少しているとのことでした。また、次年度からの募集を行わない決定をしている学校もありました。
介護人材を求める事業所は県内外を問わずたくさんあるにも関わ

らず、肝心の人材が不足しているのです。こうした背景には、介護職の労働環境や福祉事業に対する理解不足等の問題があります。
本町のみならず、日本全体を考えた場合、今後、介護人材の活躍が期待をされており、こうした問題を鑑みながら、本施設の運営や福祉事業に対する理解を求めていく取り組みを、継続的に実施していくことが必要であると思います。
準備室といたしましては、施設の魅力と併せて、町全体の魅力をお伝えする取り組みを通じて、人材の確保に努めていきたいと考えております。
お知り合いの方がおられましたら、ぜひ、お声がけをお願いいたします。



写真提供「ゆすはら暮らし」とより



ちょっと聞いてや〜 〜みんなもやってみんかえ〜

みんなが主役！ 災害ボランティアセンター

今年も各区・梶原高校で運営模擬訓練を行う予定にしております。日程が決まり次第、広報などでお知らせ致しますので、ぜひ、ご参加ください。

熊本地震 支援職員四国ブロック派遣に参加

この度の熊本地震では県内24ヶ所に災害VCが設置されました。四国四県の県市町村協会は益城郡嘉島町の支援を行うことになり、5月13日から5日間、高知県の支援チームの一員として参加しました。

益城町は被害が大きく、その町に隣接した嘉島町でもブルーシートで覆った家屋が多く見られました。しかしライフラインは確保できており、最低限の生活はできている様子でした。しかし住宅被害者の多くは、避難所や車中泊をせざるを得ない状態で、体調を崩す方や、日に日に町を離れていく方も増えているとの事でした。今後は、罹災証明書を提出の上、応急仮設住宅の入居申請を行うそうです。

今回の派遣の目的は、地元の社協職員の休息（社協職員も被災者であるため）と地域の困りごと把握に専念できる体制づくりであり、四国の各県が交替で30日間の支援を行いました。

短い期間で十分な力になれたか分かりませんが、被災地で体感した、行政・センター運営・ボランティアの動き・被災者の生の声を今後の業務に活かして行きたいと思えます。



災害ボランティアセンターとは

災害ボランティアセンターは生活復旧期に、柔軟に動けるボランティアの受け入れをすることで、地域の日も早い生活の立て直しを目指す仕組みです。



しかし、この仕組みは梶原町ではまだまだ周知されていません。運営模擬訓練に参加された方からは、「災害はいつ起こるか分からない。日ごろから継続的に取り組む必要がある。」という気づきを頂きます。



ひとりひとりが地域の大きなチカラです。生活復旧が早ければ早いほど、助けてもらう側から助ける側になることができます。ぜひ、知ることからはじめ、いざという時に備えましょう。

災害により、家の中の片づけや瓦礫の撤去、子どもたちの見守りなど地域の困り事を受け付け、それをボランティアとつなぐ役割を担います。



町外から来たボランティアの力を発揮するためには地元の方の力も必要になります。土地勘や方言などは、町外・県外の方には分かりづらい時があります。地元の方の助けがあれば、より効率的に動くことができます。



福祉体験講座 〜視覚障害の正しい理解〜



講師の金平景介さん

6月21日（火）梶原学園の教職員の皆さんが福祉体験講座を受講しました。この講座は、人権・福祉教育の推進の一助とすることを目的に、昨年度より開催し、今回は「視覚障害の正しい理解」のテーマで実施しました。講師には、視覚障害者生活訓練指導員の金平景介さんを招き、講義と疑似体験を行いました。

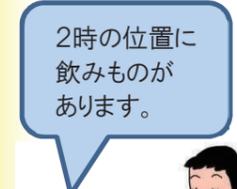
「みえなご」「見えにくい」「看不见」「見えにくい」

視覚は、視力、視野、色覚などの機能に分けられますが、このうち視力と視野に障害がある場合を視覚障害と言います。「見えない」または「見えにくい」状態で、全盲と弱視（ロービジョン）に大別されます。視覚障害というと全くものが見えない「全盲」をイメージしがちですが、視覚障害者の多くは、ものが見えにくい「弱視（ロービジョン）」と呼ばれる方です。

説明の仕方について



視覚障害者は見えない、あるいは見えにくい「見えにくい」などの指示語が分かりづらいです。できるだけ具体的に説明をするように心がけて下さい。もの位置や方向を説明する時に時計の針に見立てて説明する方法があります。



説明中

実施後のアンケートでは、「視覚障害者の方の立場で考えることができた、学んだことを子ども達に返していきたい」「視覚障害という先天性の視覚障害のイメージが強かったのですが、加齢と共に起こる弱視について知ることができたことで、視覚障害がより身近な障害であることを認識した」「視覚障害の認識は視覚障害者への理解や差別（誤解）解消につながると思ったなどの意見をいただきました。今後は昨年度に引き続き、生徒向けの講座も開催する予定です。教育・福祉の関係機関と連携し、子どもから大人までの幅広い世代が学べる仕組みづくりを進めたいと思えます。



お金の
弁別に苦戦



輝く栲原人！み～つけたっ！！

皆さんがひょっとしたら知らない、栲原で頑張っている人たちを紹介するコーナーです。『ゆずまいる』で連載している「笑顔つながれ！！輪ッハッハ」で団体にスポットを当てるように、栲原に住む皆さん1人1人にスポットを当てていきたいと思ひます。



花見て喜んでくれるひとがおる

10年ほど前だったと思うんですが、樹の手入れをしている際に不覚にも転落しまして、入院することになりました。退院後は農作業もせず、趣味だった釣りもやめることにしました。歩行器を使って歩くりハビリをしていたとき、あちこちに荒地があった道路を見て、「このまま荒地にしておいたら、何か植えてみたらいい」と思ったんです。雑草がいっぱいで今のように手入れもされていませんでした。球根や種をちらちら植えてみたり、蒔いたりしていました。はじめのうちは家のまわりだけだったんですが、周囲に荒地があったらちょっと気になって、また植えての繰り返しで今に至っています。

咲いたら誰が見てもきれいと言ってくれるので、うれしいです。満足しています。咲いた時には球根や種を分けて欲しいという方もいるので、アマリリスの球根を分けています。季節が来れば、皆きれいに咲きだしたと喜んでくれています。

上田信昌さん(92)

大正13年生まれ。栲原町仲間出身。栲原で生まれ育ち、大工への弟子入りをきっかけに川西路へ住居を移す。戦時中は沖縄で航空隊関係の作業を行う。終戦後、当時の食糧事情もあり、百姓へ転職。百姓一筋で働き現在に至る。いまは川西路白谷の沿道で、リハビリを兼ねて花などの手入れをしている。

動きよるうちは動きよらんとね！

自分の健康のためにと始めて始めたことなので、歩くりハビリが主です。「動きよるうちは動きよらんとね。体はいいけど、ここ(頭)に困るがよ。もう頭の方が置き去りやけどね(笑)」道路なので皆さんに迷惑かけないように。自分の健康のためにやれるうちはやろうと思っています。



終始笑顔のインタビュー、ありがとうございました！

おげんき発信

1日1回発信するだけ！

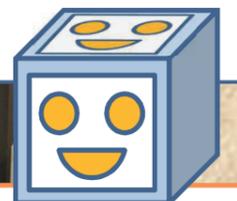


毎日午前中に1回、ご自宅の電話機(固定・携帯どちらでも可、I P電話は不可)で、げんきなようすを発信します。



竹崎絹代さん(佐渡)

〇〇さん、おはようございます。今日は〇月△日、×曜日です。おかげんはいかがですか？番号を入れてください。



ロボットさん



発信がなかった場合、みまもりさんがおげんきさんを安否確認！

事前にご利用の方と相談して決めたみまもりさんが、おげんき発信が無かった場合など、必要に応じて伺います。



おげんき発信は、安否確認センサーや緊急通報装置とは違い、その日の自分の状態を自ら発信する、新しい安否確認の仕組みです。毎日の習慣にすることで、いざという時に気にかけてもらえる仕組みになっています。一人暮らしの方でもご夫婦でも、老若男女問わずご利用頂けます。関心を持たれましたらお気軽に社協までお問い合わせください。

まずは職員が説明に伺います。体験や一週間お試し利用もできますのでご相談ください。

掲 示 板

リユース ゆすはら

地域で眠っている資源を再活用・
利活用しよう！という企画です。?



物品を希望する人

物品を提供したい人



ゆすってほしいな…。

社会福祉協議会

- ▶ 情報の収集
- ▶ 情報の公開
- ▶ 引き取り・お届け

※社協では物品のお預かりが
できません。

【担当】松本・玉川



ほしい人
いないかな…。



※6月末に皆さんのお宅に回覧でお配りした「リユース・ゆすはら」事業についてのお知らせです。

7月は、「物品を希望する人」を募集します

Q.よくある質問

A.お答えします！

Q. ほしいな…は何でもいいの？

A. 提供してくれる方がいれば基本的には大丈夫ですが、お金など提供者がいないと思われる物は不可です。

Q. 希望した物品がない場合はどうなるの？

A. 3ヶ月提供者がいない場合は無効になります。

Q. それでも欲しい場合はどうすればいいの？

A. 『再度ほしいな…』の登録用紙に記入し、ポストへ入れて下さい。

Q. 1人何枚でも入れていいの？

A. はい、入れてかまいません。

Q. 誰が使っていたの？誰が使うの？

A. 提供者、ご利用者の情報は公開いたしません。

写真が好きな方
必見です！

表紙で使う写真を募集しています



いつも梶原町社協広報誌「ゆすまいる」を見て頂きありがとうございます。いま、「ゆすまいる」では表紙に載せる写真を募集しています。「梶原」「笑顔」をテーマに、笑った人が写った写真、笑いたくなる写真、梶原町の景色、生き物などの写真を提供頂けたらと思います。構わない方は、社協職員に声をかける、又は社協までお問い合わせください。
担当：宇賀・西村・中越（悠）